

「母国に先進医療を



製鉄室蘭病院

▲
研修の抱負や成果を前田病院長(左)や小谷副院長(右)に話す、タン医師(左から2人目)とエルメカティ医師(右から2人目)

脊椎脊髄の専門治療を行う

「脊椎脊髄センター」を開設している製鉄記念室蘭病院(前田征洋病院長)で、外国人医師2人が研修に励んでいる。2人は最新鋭の術中モバイルCT(コンピュータ断層撮影装置)と、最新式のコンピュータナビゲーションなどもある「国内最先端の脊椎脊髄手術施設」(同病院)で、低侵襲脊椎手術などの医療技術を学んでいる。

研修を行っているのは、マレーシア大学サラワク病院のタン・ブーン・ベン医師(36)と、エジプト・タンタ大学医学部整形外科のモハメド・アームド・ハフェズ・エルメカティ医師(29)。2人とも専門は脊椎脊髄外科。

タン医師は、「日本の脊椎外科研修病院で、臨床研修と研究を進めたい」として今年4月に来蘭。6月末で研修を終えた。「マレーシアでは認可されていない術式もあり、非常に勉強になった」「患者

外国人医師2人 研修

の症例ごとに議論して、治療を決めるシステムが素晴らしい」と成果を話す。帰国後は、学会発表や論文執筆にも取りかかる予定だ。

一方、エルメカティ医師は、一定の診療経験がある医師が、厚生労働省の指定病院で、特例的に医療行為ができる「外国人臨床研修制度」を利用して、今年6月に来蘭した。小谷善久副院長・同センター長の論文をインターネットで見つけて、同病院での研修を志願したという。

今後は、手術にも参加して手技を学ぶ予定だ。「手術は傷が小さく、安全性や衛生面などにも考慮し、合併症も防ぐ手法が素晴らしい」と話すエルメカティ医師は、将来的な論文執筆や母国での博士号取得も目指して、1年間の研修に励む考えだ。

外国人臨床研修制度に関わる指定病院は、胆振管内では同病院が唯一。前田病院長は、「若手医師にも大きな刺激となつている。研修教育病院としても誇らしいこと。国際交流進展の一助になれば」と話している。(松岡秀宜)